

ケアリング・デモクラシーの構築に向けて

——日米の保育運動の比較から——

下関市立大学 萩原久美子

【目的】

福祉国家の再編過程において、先進国はケアの生産・供給に何らかの市場メカニズムを導入することで社会サービスの制度改革を行ってきた。保育分野について言えば日本でも子ども子育て支援新制度によって利用者補助方式の導入と営利企業の参入が制度化された。しかし、ケア供給とその雇用に関する国家・市場・家族間のトリレンマは解決せず、保育サービスの不足、サービスへのアクセス格差、保育労働者の低処遇と不安定雇用という問題は深刻化している。本報告はこれらケアの危機的諸相の乗り越えをケアリング・デモクラシー (Tronto, 2013) の視座から考察する。日米の保育労働者の動員構造、集合的ヴォイスの形成 / 解体過程を通し、「ケアリングのニーズとそのニーズが満たされる方法が正義、平等、解放への民主的なコミットメントと整合していること (caring with)」(Tronto, 2013:23) を基盤とするケアリング・デモクラシーの現状と行方を検討する。

【方法】

福祉国家類型においては自由主義レジーム、資本主義の類型においては自由主義的市場経済 (LME) として分類されるアメリカに対して、日本は調整された市場経済 (CME) と分類されてきた。本報告はその両国を対象とし、保育労働者を組織化する労働組合のオルガナイザーと保育労働者に対する現地調査を行った。アメリカではファミリーデイケアを提供する保育労働者の組織化を進める AFCSME(自治体従業員組合連合)、SEIU(国際サービス従業員労組) を対象とする。日本については自治労、自治労連、福祉保育労を対象としている。新たな組織化戦略の創出、市民団体や職能団体等と連携構築等の態様に着目し、商品としての価値を超えたケアの公共的基盤の回復可能性を分析する。

【結果】

日米双方において保育労働者がケアの生産・供給体制に直接的に参加するチャンネルは限られており、最も組織化しがたいと言われてきた女性労働者層を中心としている。アメリカでは民間企業による経営と個人業者が主流となり、個別分断された労働者が中心としている。ただし公共部門、サービス部門では組合内部の女性割合が男性を上回る女性化現象が見られる。女性がケア (育児・介護) の担い手、受け手双方の主体となることで組織化の対象を越えて広範な動員構造の基盤となっている。一方、日本では保育士の組織率は公共部門を軸に維持されてきたが、公立保育所の民営化と営利企業経営の参入により、90年代以降、組織率が大幅に低下している。「労働組合の女性化」現象も見られず、むしろ伝統的な集合的労使関係のもとで組織化戦略の刷新を見いだせずにいるからである。

【結論】

日米の比較を通じ、ケアリング・デモクラシーの現状を把握する論点として以下が導き出される。保育サービスの生産・供給の市場化過程とは (准) 市場の導入によってケアの共同性をケア商品の需給関係へと転換し、市民を消費者へと転換する過程である。その過程は保育労働者の市民、労働者としての集合的ヴォイスの構築を疎外することによって進められ、運動に内在するケアをめぐる正義、平等、解放という民主主義的側面を掘り崩している。その対抗のための連携構築において日本では保育分野での公共部門の解体局面で喪失した共闘体制の再構築が課題であるのに対し、アメリカにおいては広範な共闘体制の構築がいかなる形で保育サービスにおける公共性を言説化するかが課題となる。